

# 国における放課後児童クラブの基準等の検討状況について

## 1 これまでの経過

○放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の基準等については、厚生労働省社会保障審議会児童部会を中心に議論

○基準の内容について検討するため、厚生労働省社会保障審議会児童部会に「放課後児童クラブの基準に関する専門委員会」を設置

これまで、委員会は4回開催され、基準について検討されてきた。

## 2 これまでの検討の内容

### (1) 基準の範囲・方向性

- ・「子ども・子育て新システム基本制度」で例示された内容、放課後児童クラブガイドラインで示している内容、他の制度で定められている基準の内容等を踏まえ検討する。
- ・省令として定めるもの、ガイドライン等で定めるものがあることを念頭に検討する。

### (2) 従事する者(職員の資格)【従うべき基準】

- ・職員の資格は、「児童の遊びを指導する者」としてはどうか。  
児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第38条  
保育士、社会福祉士、教員免許を有する者、2年以上児童福祉事業に従事した者など
- ・全員に資格を求めるか。
- ・現在従事している無資格者に対する何らかの措置(研修の受講等)を設けてはどうか。

#### 【岡山市の状況】

岡山市の指導員の17.7% 113人が無資格

- ・職員の質を向上させるための研修の検討

### (3) 職員の員数【従うべき基準】

- ・職員配置は、複数配置を基本としてはどうか。  
小規模児童クラブの対応をどうするか。
- ・児童数に応じた職員数は、引き続き検討。

### (4) 施設・設備

- ・専用室・専用スペースを設置することにしてはどうか。
- ・児童1人当たり1.65㎡の水準を中心に検討する。

#### 【岡山市の状況】

12クラブ16施設が1.65㎡未満

- ・静養室・静養スペースを設けるか。

#### 【岡山市の状況】

124施設中68施設に設置されている

#### (5)開所日数・開所時間

- ・具体的な日数、時間数を定めるか引き続き検討する。
- ・時間の考え方の検討(クラブを開けている時間か、児童がいる時間か)

#### (6)その他の基準

- ・放課後児童クラブガイドライン等で示されているものの内、どのようなものを基準として定めるか。
- ・建築・消防関係
- ・児童クラブの規模

ガイドラインでは、集団の規模はおおむね40人程度までとするのが望ましい。  
1クラブの規模は、最大70人までとすることとなっている。(超えると分割)

#### (7)その他の論点

- ・児童クラブの利用手続きについて
- ・対象児童が6年生までとなるにあたり配慮すべきものは、どのようなものが考えられるか。
- ・放課後子ども教室、児童館との連携
- ・公費の提供を受けていない企業等が実施する「学童保育」への対応

### 3 これからの国の検討スケジュール

- ・第5回(未定) 基準について更なる検討
  - ・第6回目以降 取りまとめ案の提示・議論
  - ・取りまとめ(年内目途)
  - ・児童部会、子ども・子育て会議へ報告
- ※取りまとめを基に、省令の作成・公布(年度内目途)